

研究・調査報告書

| 報告書番号 | 担当 |
|---|-------------------|
| 123 | 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学 |
| 題名 (原題/訳) | |
| Prevalence and incidence of ocular trauma in North China: the Beijing Eye Study. 中国北部における眼球外傷の発生率と有病率 : the Beijing Eye Study. | |
| 執筆者 | |
| Wang JD, Xu L, Wang YX, You QS, Zhang JS, Jonas JB. | |
| 掲載誌 (番号又は発行年月日) | |
| Acta Ophthalmol. 2012 Feb;90(1):e61-7. | |
| キーワード | |
| 北京、眼球外傷、発症率、有病率 | |
| 要 旨 | |
| 目的 : 北京の一般住民における眼外傷の発生率と有病率および外傷に関連した視覚障害の割合を調べる。 | |
| 方法 : 2001年度の Beijing Eye Study に含まれる一般住民 4,439 人が対象で、そのうち 3,251 人が 2006 年に追跡調査を行った。(追跡率 73.3%) 対象者には包括的な眼球に関する評価を行った。眼外傷や治療の種類における前向きな情報は面接により質問票に記録した。 | |
| 結果 : 眼外傷歴は 72 人 (1.6±0.2%) で年齢で標準化した有病率は 1.7±0.01%であった。眼外傷の有病率は男性 (p=0.02)、地方在住 (p=0.04)、飲酒 (p=0.01) と関連した。視力障害の原因となる外傷は 4 眼 (6.6%)、失明の原因となる外傷は 3 眼 (4.2%) であった。2006 年の追跡調査時の眼外傷の自己報告は 116 例 (3.6±0.3%) で、男性 (p=0.002)、低所得 (p=0.01)、飲酒 (p=0.016) と関連した。5 年間の眼外傷発生率は 2.6±0.3%で、男性 (p=0.02)、若年 (p=0.037)、低所得 (p=0.009) と関連した。 | |
| 結論 : 北京の 40 歳以上の一般住民において、眼外傷の有病率は 1.6±0.2%で、男性、地方在住、飲酒と関連した。年齢で標準化した眼外傷の有病率は 1.7±0.01%であり、白人における報告と合致した。5 年間の眼外傷発生率は 2.6±0.3%で、男性、若年、低所得と関連した。 | |